



都立橋高校 産学懇談会施設見学より



当日は授業のない時間帯だったため、産学懇談会は施設見学を行いました。生徒の活動を見ることはできませんでしたが、全国的に新型コロナの感染者数が増えている状況でもあり、学校も参加者にとっても、生徒のいない施設見学はむしろ良かったのかもしれない。

久しぶりの学校訪問のためか、ついつい時間が押してしまい、会場校の先生方を待たせてしまいました。

まずは溶接の教室。スカイツリーの建設で使った溶接機を使うときは、生徒もモチベーションが上がるとのお話も伺いました。



次は、クラフトや染色の教室。窓にカーテンのように吊り下げているのは、シーツを染めた作品です。

教室の配管からいくつも吊り下げているものは、「金魚ねぶた」。この作品の製作を通して基本を学び、この先には、大きな作品作りが待っているそうです。



左奥にある機械は、マシニングセンターという工作機械です。コンピューター制御によっていくつかの工具を交換し、金属の平面を削ったり、穴を開けたりすることができます。

授業では、真鍮（黄銅）を使って文鎮を制作しています。



右は「旋盤」という工作機械です。回転する金属の工作物に刃をあてて、削る工作機械です。

都立橋高校は閉校した都立向島工業高校の施設を使っているので、この他にも工作機械はたくさんあります。



本年度から都立橋高校は「伝統工芸教育推進校」として、陶芸、ガラス工芸、彫金（ジュエリー）、染色、木工などの伝統工芸に対して興味・関心を高める教育を進めています。





ガラス工芸の教室です。



彫金の教室です。
貴重な金属を削った後の金属粉も回収できるように工夫された作業機の周りに集まって説明を受けました。



パッケージのデザインをした後、カッティングプロッターという機械で切り出しから折線処理までできます。



作品の素材となる段ボールは、梱包用とは異なり高価なもので価格設定が難しいという説明もありました。このような課題には産業界会員ならではのアドバイスもありました。



新型コロナウイルス感染症対策により学校を会場にした産学懇談会は、令和元年11月以来、実に2年8か月ぶりの開催となりました。

左は、会議室で行われた懇談会の様子で、会場参加は17名、オンライン参加4名、計21名の参加でした。

懇談会の最後には、金子副会長から謝辞を深澤校長先生に差し上げました。

意見交換に先立って行われた施設見学は、それぞれの教室に全日制課程・定時制課程の先生方が待機されており、それぞれの担当の先生方から丁寧な説明を受けることができました。

都立橘高校の皆さま、ありがとうございました。

